

地域おこし協力隊通信 (No. 30) 住めば都。実家よりも快適に

私が住んでいる家は古く、雨脚が強くなると天井が染み出します。大きな車が通るたびに家が揺れ、木枠の窓ガラスがパンパンと音を立てます。去年の台風はてんでこ舞いでした。

天井裏の水がポタポタと溢れ出し、あちこちの畳を濡らしします。「えらいこっちゃ!」と家中のバケツや鍋をセットしたものの、雨漏りの位置が変わるので落ち着く暇がありません。恨めしそうに天井を見上げ、新たな落下点がないか巡回し、落下点が変われば受け位置を変えるなどの応急処置に追われます。ようやく眠ろうと布団に潜り込みましたが、布団が濡れないようにに寝場所を移動しながらだったので、休まる事のない夜となりました。

そして翌朝、いつもより眩しい朝日に違和感を感じて目を覚ますと、窓の外に建っていたはずの納屋の屋根が崩れ落ち、完全に倒壊していたという散々な顛末を経験しました。

この紙面をお借りして、不満をツラツラと書き立てている訳ではありません。

そんな家ではありませんが、今は大好きな棲家です。

歩けば軋む床も、窓ガラスの不快な音も気にならない日常の音になり、台風は怖かったけど今では笑い飛ばせる話のネタになっています。

そんな家の中でも一番のお気に入りの場所を自慢します! それはとても広い縁側です。都会で庭のある暮らしをした事がなかったため、私はここで過ごす時間にとっても有り難み感じています。

何も用事がない休日には、この縁側から庭の芭蕉(島バナナ)の葉が揺れるのを、昼間には雲夜には星を眺めながら、焼酎を片手に季節の音に耳を澄ますのが大好きです。

移住当初はあまりにも古い家で戸惑いましたが、少しでも見栄えがよくなるようにと壁や天井のペンキを塗ったりして手を加え、不慣れは工夫で、不快は慣れで快適に変わる事を覚え、今は大阪の実家よりも快適に過ごせる場所となりました。

そんな住めば都の我が家の庭に、もうすぐフクロウがやってきます。

(松田)



長年の功績を讃えて

徳永芳博さん瑞宝双光章受章

昭和46年9月1日に中種子町消防団に入団してから勤続年数45年7ヶ月という長年の功績が評価され、徳永芳博さん(田島)が瑞宝双光章を受章し、2月23日に中央公民館大ホールにおいて、祝賀会が開かれ、町長はじめ各関係者約130人が出席しました。

瑞宝双光章とは、日本の勲章の一つで、公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、職務を果たし成績をあげた人に授与されます。



感性豊かな立体表現

第34回鹿児島県ゆめ立体彫刻展



第34回鹿児島県ゆめ立体彫刻展でかねての生活をテーマに楽しく想像を広げて粘土でつくった作品が、全県からの出品約1400点の中から選ばれ、2月11日から17日の期間、鹿児島市立美術館において展示されました。

■ 県知事賞  
 納官小学校6年 牛原 幸英

■ 県学校教育用品共同組合賞  
 納官小学校4年 遠藤 みゆ

■ 優秀学校賞  
 納官小学校